

# 課外活動に関する本学学生の実態について(1)

## The Present Situation with Regard to Students and Extra Curricular Activities at Nagoya Bunri University (1)

関 豪  
Takeshi SEKI

学生が大学でのキャンパスライフを満喫するためには、サークル活動等「課外の活動」が大きな鍵になると「課外活動における活性化の試案」<sup>1)</sup>で述べた。しかしながら、大学が設立されてから4年目を迎えた現在、サークル活動や自治会活動を積極的に取り組む学生は少ないのが現状である。

そこで課外活動に関する本学学生の実態を明らかにすることを目的としてアンケート調査を実施した。有効回答495名(70.1%)の調査結果は、1. 中学・高校時代を通じて課外活動を経験してきた学生は、それぞれ80%と62%であり、その活動を大学でも実施したいと希望している学生は46%であった。2. 課外活動に携わっている学生は全体の26%にすぎなかった。活動している理由の約半数が、活動している種目や内容が好きであると答えている。しかし、活動しているにも関わらず、障害があると答えている学生は57%であった。3. 活動しない理由は、活動したいと思うサークルがないと答えた学生が最も多く32%であった。これらの学生の約半数が新しくサークルをつくりたいと答えているが、つくるに当たり障害があると74%の学生が答えている。4. 課外活動は人間形成に役立つ、友人を作る場となる、健康の維持増進に役立つ、忍耐力や根性をつける等と答えた学生は多かったが、進学や就職に有利であると答えた学生は少なかった。5. 勉学以外に学生生活で興味を持っている学生は半数以下であった。6. 本学学生の77%が運動不足を感じ、47%の学生が全く運動をしていない状況であった。7. 約7割の学生がアルバイトに携わっており、週5日4時間の学生が最も多かった。8. 平日の自由時間は、遊びもしくはアルバイトで過ごす学生が多かった。9. 本学の課外活動についてサークルの数が少ない、課外活動が行われているのか分からないと答えた学生が多く、そのほかにも様々な不満や希望があることが分かった。

以上の結果を含まえ、今後「課外活動における活性化の試案」<sup>1)</sup>を具体化し、課外活動の活性化、更には大学の活性化に繋がるよう努めたい。

キーワード：大学生生活、課外活動、実態調査

College Life, Extracurricular Activities, Research on The Actual Condition

### I. はじめに

大学教育とは「正課の教育」と「課外の教育」が相互に補完し合って成り立っているものである。「課外の教育」とはサークル活動や自治会活動等が中心的な内容となる。その意味で学生が大学でのキャンパスライフを満喫するためにも「課外の教育」が大きな鍵になると、「課外活動における活性化の試案」<sup>1)</sup>(以下「試

案)でも述べた。

しかし大学としてスタートしてから4年目を迎えた現在、サークル活動や自治会活動を積極的に取り組む学生は少ないのが現状である。このような現状は、本学のみ止まる問題ではない。学生の課外活動離れという問題は他の大学でも共通して聞かれるが、学生時代にしか味わうことのできないかけがえのない時間を

有効に活用できるように方向付けるのも、大学教育としての役割の一つであると思われる。なぜ本学の学生は課外活動に積極的に取り組むことをしないのか、学生自身の課外活動に対する意識の問題なのか、それとも学生をサポートする側である大学に問題があるのか、いずれにしろ課外活動の活性化が学内の活性化につながり、さらには他大学との交流等も活発になり、学生自身が社会的に成長していく上での動機付けになるのではないだろうか。

そこでこの程、課外活動に関する学生の実態を明らかにするためのアンケート調査を実施したので、その結果をここに報告する。

## II. 方法

### 1. 調査対象

調査は本学の全学生を対象として、授業終了時に集合調査法で行った。

有効回答は495名(70.1%)であった。その内訳は、情報文化学科男子255名(72.6%)、女子66名(72.5%)、社会情報学科男子145名(63.0%)、女子29名(85.3%)であった。

調査は平成14年10月に実施した。

### 2. 質問紙作成

質問紙は以下の通り作成した。

#### Q 1

中学、高校時代の課外活動経験について答えて下さい。1～4の項目で該当するものに○印をつけて下さい。1～3に当てはまる学生は、具体的な活動内容を( )に記入して下さい。複数の経験がある学生は、主なものを2つ選んで記入して下さい。

##### <中学時代>

1. スポーツ・文化等のクラブ活動
2. 生徒会活動
3. その他(例:ボランティア活動など)
4. 活動していない

活動( ) ( )年間  
活動( ) ( )年間

SQ 1. 中学時代課外活動を経験してきた学生におたずねします。その活動実績はどうでしたか。該当するものに○をつけて下さい。

1. 全国大会に出場
2. 地方大会に出場
3. 県大会に出場
4. 県内の地区大会に出場
5. クラブ内での試合や発表を楽しむ程度

##### <高校時代>

1. スポーツ・文化等のクラブ活動
2. 生徒会活動
3. その他(例:ボランティア活動など)
4. 活動していない

活動( ) ( )年間  
活動( ) ( )年間

SQ 2. 高校時代課外活動を経験してきた学生におたずねします。その活動実績はどうでしたか。該当するものに○をつけて下さい。

1. 全国大会に出場
2. 地方大会に出場
3. 県大会に出場
4. 県内の地区大会に出場
5. クラブ内での試合や発表を楽しむ程度

SQ 3. 中学、高校で課外活動を経験してきた学生におたずねします。経験してきた活動を大学でも行いたいですか。該当する項目に○印をつけ、具体的な理由を記入して下さい。

1. 行いたい
  2. 行いたくない
- 理由(例:楽しかったから、練習がきつかったからなど)

#### Q 2

現在本学で、何か課外活動(スポーツ系・文化系サークル、自治会活動など)を行っていますか。該当する項目に○印をつけ、何を行っているのか( )に記入して下さい。

1. スポーツ系サークルで活動している ( )
2. 文化系サークルで活動している ( )
3. 自治会で活動している ( )
4. 検討中である ( )
5. 学外で活動している ( )
6. 活動していない ( )

SQ 1. Q 2で1. 2. 3を選んだ学生におたずねします。なぜ活動をしているのですか。該当する項目に○印をつけて下さい。その他に該当する学生は、( )に具体的な理由を記入して下さい。

1. 活動している種目や内容が好き
2. 友人を作るため
3. 健康の維持・増進のため
4. 社会的な人間形成の場として
5. 試合または大会(文化系サークルも含む 例:作品展等)に参加するため
6. その他( )



### 3. 集計

アンケートの集計はEXCELを使用した。

### Ⅲ. 結果および考察

#### 1. 中学、高校時代の課外活動について

##### (1) 中学時代の課外活動状況について

中学時代の課外活動状況を図1に示した。スポーツ・文化等のクラブ活動を経験してきた学生は全体の77%、生徒会活動を経験してきた学生は3%、その他(ボランティア活動等)は4%、活動していない学生は16%であった。スポーツ・文化等のクラブ活動および生徒会活動を経験してきた学生は全体の80%となり、本学学生の多くが中学時代には課外活動に取り組んでいたことが分かる。

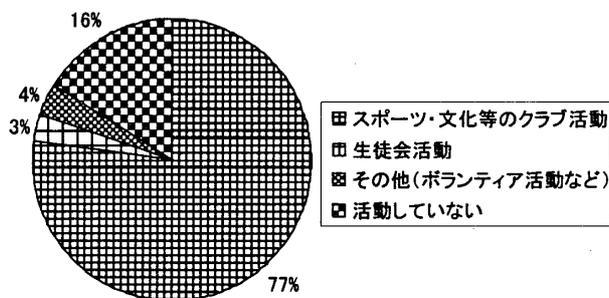


図1 中学時代の課外活動状況について

##### (2) 中学時代の活動種目について

中学時代に活動していた種目には様々なものがあげられる。中でも経験した人数が多い順にスポーツ系10種目、文化系5種目を図2に示した。スポーツ系では、バスケットボールが最も多く63名、次いでサッカーの60名、以下テニス、ハンドボール、卓球、バレーボール、野球、陸上、剣道、水泳、ソフトボールの順であった。文化系では、合唱、吹奏楽が最も多く6名、以下美術、科学、囲碁将棋の順であった。

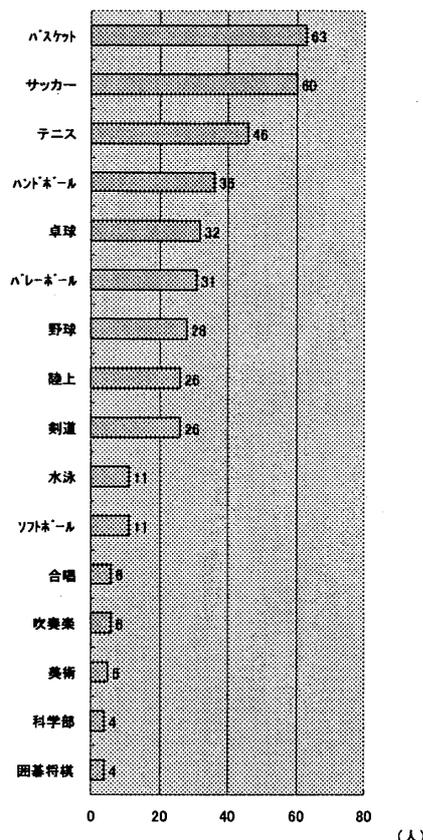


図2 中学時代の活動種目について

##### (3) 中学時代の活動年数について

中学時代に活動した年数について図3に示した。1年間活動した学生は全体の8%、2年間活動した学生は8%、3年間活動した学生は84%であった。中学時代には本学学生の多くが3年間に亘って活動していたことが分かる。

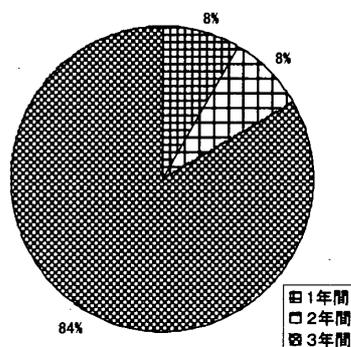


図3 中学時代の活動年数について

##### (4) 中学時代の活動実績について

中学時代に取り組んだ種目の活動実績について図4に示した。全国大会に出場した学生は全体の2%、地方大会に出場した学生は21%、県大会に出場した学生

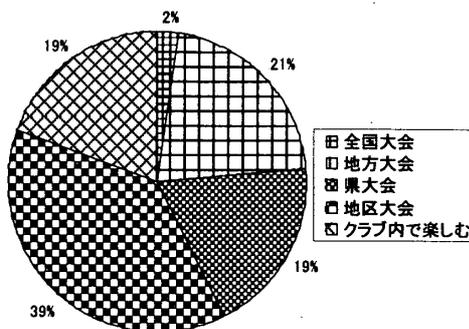


図4 中学時代の活動実績について

は19%，地区大会に出場した学生は39%，クラブ内で楽しんだ学生は19%であった。その実績はともかくとして、本学学生の多くがしかるべき大会に出場するなど目的意識を持ち活動していたことが分かる。

(5) 高校時代の課外活動状況について

高校時代の課外活動状況を図5に示した。スポーツ・文化等のクラブ活動を経験してきた学生は全体の59%，生徒会活動を経験してきた学生は3%，その他（ボランティア活動等）は3%，活動していない学生は35%であった。中学時代の活動状況と比較するとスポーツ・文化等のクラブ活動が約20%減となっている。中学までの義務教育から離れ、課外活動に対する認識が薄れてきたことが要因の一つではないかと示唆される。とはいえ、スポーツ・文化等のクラブ活動を経験してきた学生は全体の62%であり、半数以上の学生が課外活動に取り組んできたことが分かる。

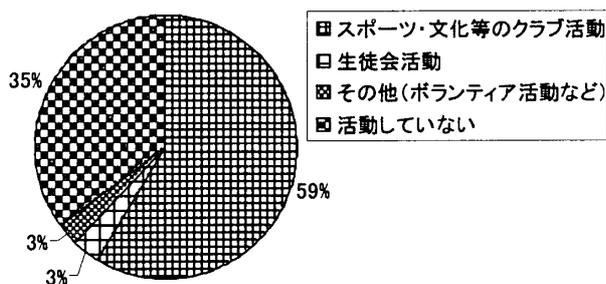


図5 高校時代の課外活動状況について

(6) 高校時代の活動種目について

高校時代に活動していた種目には様々なものがあげられる。中でも経験した人数が多い順にスポーツ系は10種目、文化系5種目を図6に示した。スポーツ系では、ハンドボールが一番多く39名、次いでサッカーの35名、以下バスケットボール、テニス、野球、陸上、バレーボール、柔道、卓球、水泳、バドミントンの順であった。文化系では、コンピュータが一番多く11名、以下茶華道、演劇、科学、吹奏楽の順であった。中学時代に活動していた種目と比較すると、スポーツ系は相対的に活動している人数が減少しているが、中学時代に上位であった種目とほぼ変わらない種目が上位を占めている。ハンドボールが唯一中学時代の人数を上回り活動種目1位にランクされているが、ハンドボール経験者に声をかけ本学に入学させていることが影響していると示唆される。文化系は本学が情報系の学部ということもあり、高校時代からコンピュータに携わっている学生が多かったのではないかと示唆される。

中学時代にランクされてこなかった茶華道、演劇といった活動種目にも注目すべきところである。

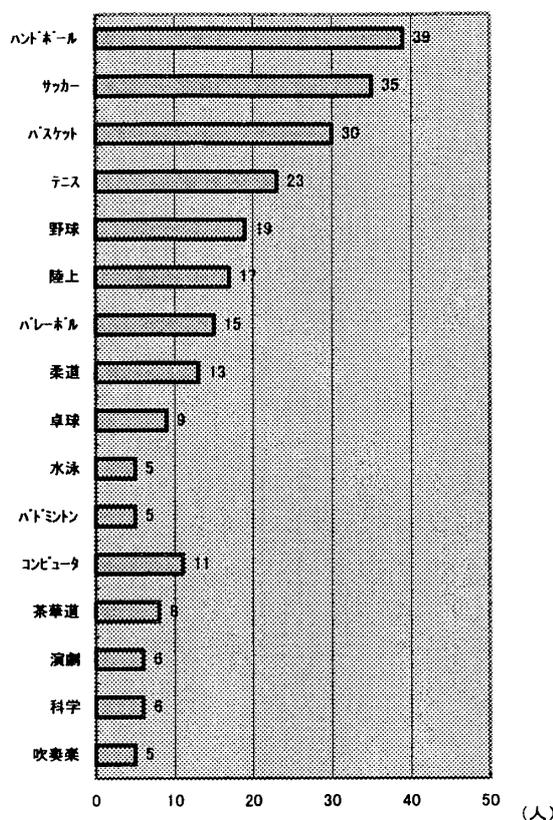


図6 高校時代の活動種目について

(7) 高校時代の活動年数について

高校時代に活動した年数について図7に示した。1年間活動した学生は全体の25%，2年間活動した学生は16%，3年間活動した学生は59%であった。中学時代に活動した年数と比較すると3年間継続して活動してきた学生が約25%減となり、1年間もしくは2年間活動するだけの学生が増えているのが分かる。今日的な風潮とはいえ、目的意識を持ち最後まで物事をやり通すという学生が少なくなっていることが示唆され

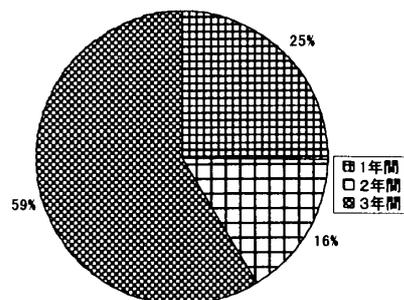


図7 高校時代の活動年数について

る。先にも記述したが課外活動を経験してきた学生は中学時代より高校時代の方が約20%減となっている。その中で3年間継続して課外活動に取り組んできた学生は貴重な存在であるといえる。

(8) 高校時代の活動実績について

高校時代に取り組んだ種目の活動実績について図8に示した。全国大会に出場した学生は全体の9%、地方大会に出場した学生は15%、県大会に出場した学生は17%、地区大会に出場した学生は26%、クラブ内で楽しんだ学生は33%であった。中学時代の活動実績と比較すると全国大会に出場した学生が増えた一方、クラブ内で楽しむことを求めて課外活動に取り組んできた学生も増えている。全国大会に出場した学生が増えた要因の一つとして、ハンドボール経験者の多くが全国大会に出場していることが示唆される。クラブ内で楽しむという学生が増えた背景には、先にも記述したように、最後まで目的意識を持って活動する学生が少なくなってきたこと、もしくは現状が楽しければそれでいいという考えを持つ学生が増えてきていることが示唆される。

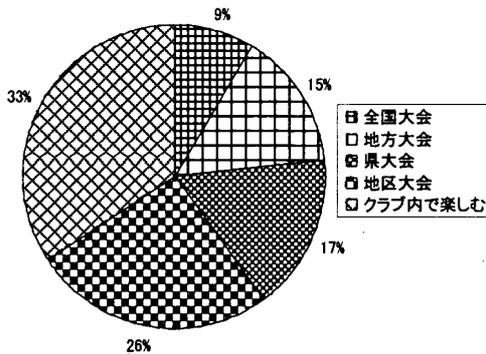


図8 高校の活動実績について

(9) 中学・高校時代に経験した活動を大学で行いたいかについて

上記アンケートについての結果を図9に示した。大学でも行いたいと答えた学生は全体の46%、行いたくないと答えた学生は54%であった。

中学・高校時代に経験してきた活動を大学でも行いたいと答えた学生の理由について、多い順に8項目を図10に示した。楽しいからと答えた学生が67名で最も多く、次いで経験してきた種目が好きであると答えた学生が32名、以下いい運動になる、新しい出会いを求めて、楽しみや刺激を求めて、何もやらないと暇だから、体を動かすことが好き、自分のためになる等であ

った。楽しいからと答えた学生が最も多い結果となったが、明確な目的意識を持ちえない限りサークルを立ち上げても、活動することなく消滅していくという現状からは逃れられないのではないだろうか。もちろんその中には楽しみを求めて活動するサークルが存在しても問題はないが、活性化を最優先するのであれば、明確な目的意識を持ち活動するサークルが幾つか必要となるのではないかと考えられる。

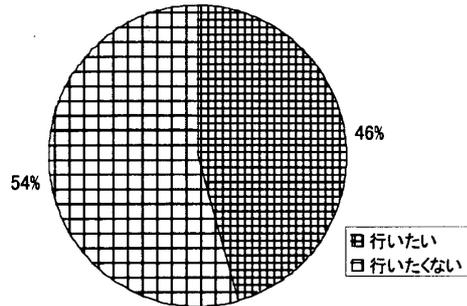


図9 経験してきた活動を大学で行いたいか

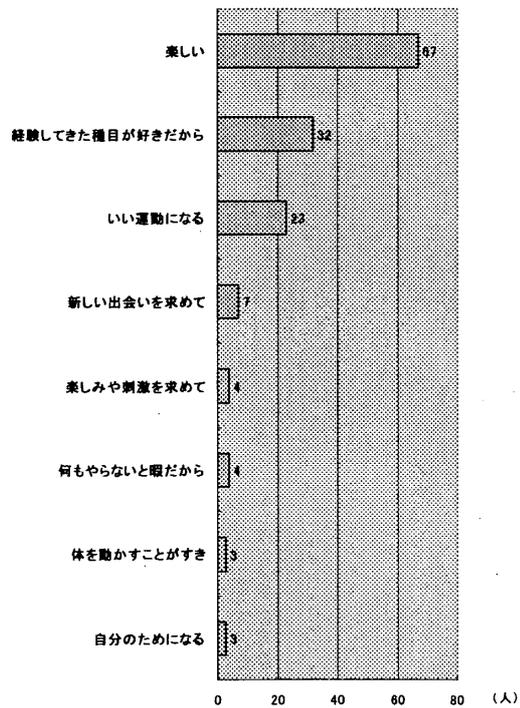


図10 行いたい理由について

中学・高校時代に経験してきた活動を大学で行いたくないと答えた学生の理由について、多い順に10項目を図11に示した。時間がないと答えた学生が42名で最も多く、次いで違う経験をしたいと答えた学生が17名、

以下練習がきつかった、面倒くさい、帰りが遅くなる、強制的にやりたくない、飽きた、おもしろくない、体力がない、大学へ来てまでやりたくない等であった。時間がないと答えた学生が最も多い結果であるが、質問 Q7の結果でも後述するように、課外活動よりも楽しく収入のあるアルバイトにほとんどの学生が携わっているのが現状である。違う経験をしたい、練習がきつかった等と答える学生が順次多い結果であるが、高校時代の課外活動の思い出が決してよいものではなかったことが示唆される。大学でも行いたいと答えた学生の多くが楽しいからと答えている反面、行いたくないと答えた学生の上位に、違う経験をしたい、もしくは練習がきついと答えている学生もおり、中学、高校での課外活動の実態について今後の調査対象の一つであると考えられる。

を大学でも行いたいかと尋ねた結果、行いたいと答えた学生が46%であったにも関わらず、実際に本学で活動している学生は26%にすぎなかった。20%の学生が経験してきた種目を行いたいと答えたにも関わらず、本学で活動していないのが現状である。

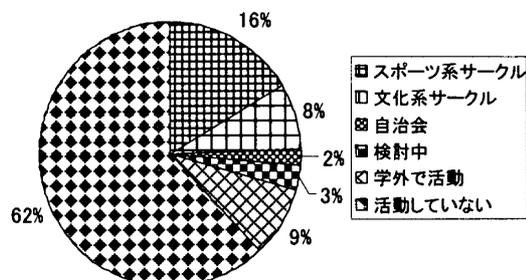


図12 本学学生の課外活動状況について

(2) 本学のサークルについて

スポーツ系サークルおよび文化系サークルで活動している学生の内訳について図13に示した。スポーツ系のサークルではハンドボールが29名で最も多く、次いでサッカー、以下バスケットボール、野球、テニス、インディアカ、スキー・スノーボード、スポーツ同好会、ボーリングの順であった。ハンドボールは高校時代の経験者を募っているため、多くの部員で成り立っているが、課外活動の活性化、さらには大学の活性化を考慮するのであれば、図13上からサッカー、バスケ

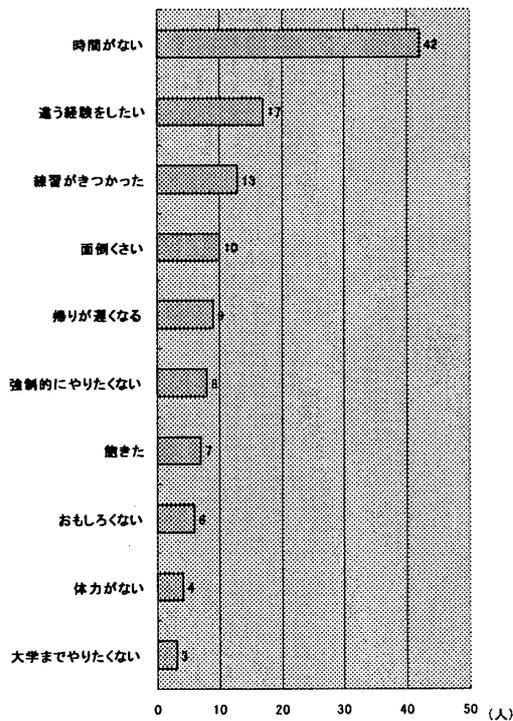


図11 行いたくない理由について

2. 本学の課外活動について

(1) 本学の課外活動状況について

本学における課外活動状況について図12に示した。スポーツ系サークルで活動している学生は全体の16%、文化系サークルで活動している学生は8%、自治会等で活動している学生は2%、検討中の学生は3%、学外で活動している学生は9%、活動していない学生は62%であった。中学、高校時代に経験してきた種目

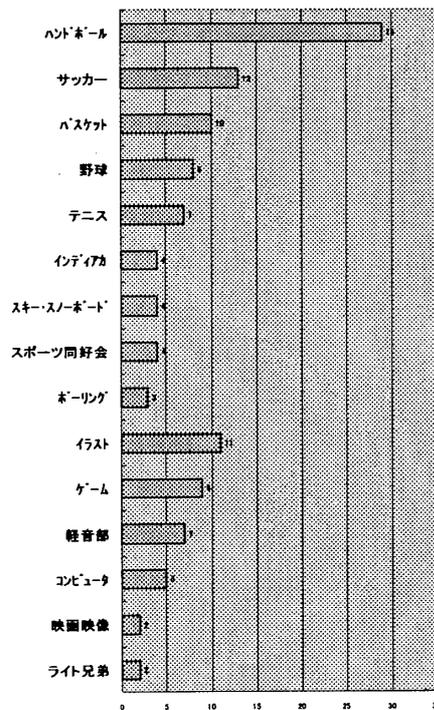


図13 サークルの内訳について

ットボール、野球などのサークルについても高校時代に経験してきた学生を募ることが必要ではないだろうか。その際「試案」に記載した、監督やコーチ等のスタッフ、設備面、入学後の学生に対する援助・補助等、検討しうる事項が多々あるものと思われる<sup>1)</sup>。文化系のサークルではイラストが11名で最も多く、以下ゲーム、軽音、コンピュータ、映画映像、ライト兄弟（資格取得）であった。文化系のサークルについても、本学の特色を生かしたサークルをつくり、その活動成果を学内もしくは学外に発表することが大学の活性化につながるのではないだろうか。

(3) 活動する理由および活動する際の障害について

スポーツ系、文化系および自治会で活動している学生がなぜ本学で活動するのか、その理由について図14に示した。活動している種目や内容が好きであると答えた学生は全体の46%、友人を作るためと答えた学生は14%、健康の維持・増進のためと答えた学生は10%、社会的な人間形成の場と答えた学生は6%、試合または大会に参加するためと答えた学生は18%、その他が6%であった。約半数の学生が活動している種目や内容が好きであると答えているが、先にも記述したが目的意識を明確に持って活動する学生が増えることにより、サークル活動の活性化、さらには大学の活性化につながるのではないかと考えられる。

スポーツ系、文化系および自治会で活動している学生が、本学で活動する上で何か障害があるのかについて図15に示した。障害があると答えた学生は57%、障害はないと答えた学生は43%であった。障害があると答えた学生の障害要因について図16に示した。施設がないと答えた学生が15%、指導者がいないと答えた学生は10%、時間がないと答えた学生は21%、お金がないと答えた学生は32%、その他が22%であった。その他の詳細について図17に示した。お金がないと答えた学生が最も多い結果となったが、サークル活動資金がないのか、それとも他に必要とする資金がないのか

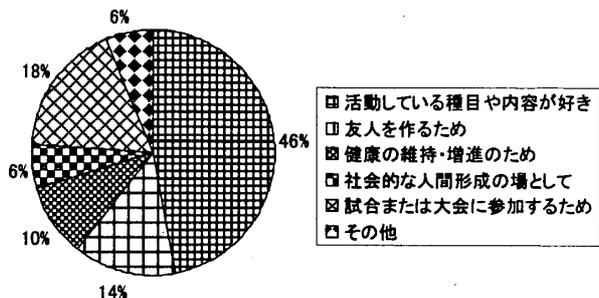


図14 活動する理由について

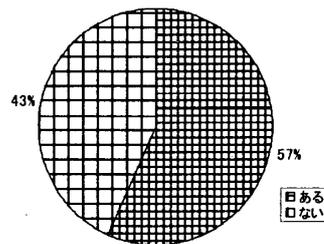


図15 活動上の障害について

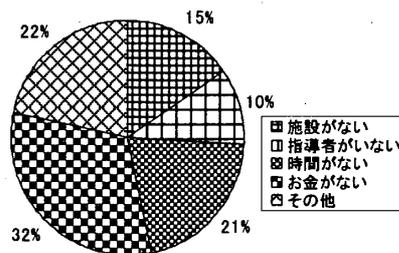


図16 活動上の障害要因について

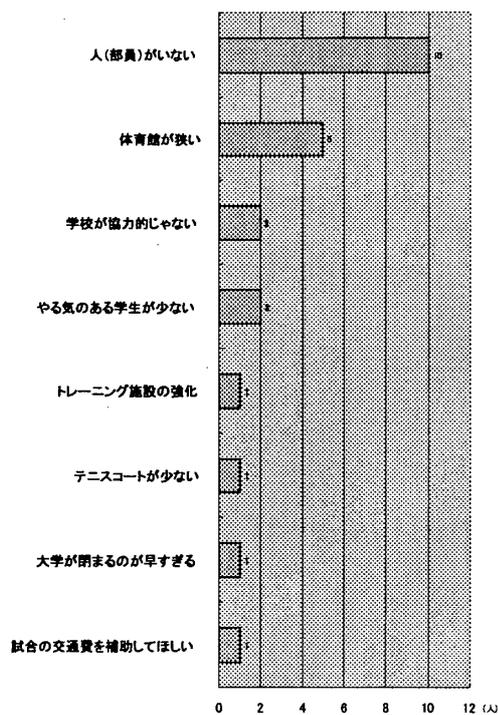


図17 その他の障害要因について

定かではない。しかしながら前掲「試案」で提案した活性化の対策事項と、今回の調査で得た障害要因に類似している点が幾つか見られた<sup>1)</sup>。前掲「試案」をさらに具体化していく必要があるのではないかとと思われる。

(4) 活動しない理由について

本学で課外活動をしていない学生がなぜ活動しない

のか、その理由について図18に示した。活動したいと思うサークルがないと答えた学生は32%、アルバイトが忙しいと答えた学生は25%、サークル活動に興味がないと答えた学生は8%、通学に時間がかかると答えた学生は18%、学外の仲間と活動する方が楽しいと答えた学生は9%、その他が8%であった。その他の詳細について図19に示した。先にも記述したが、20%の学生が経験してきた種目を行いたいと答えたにも関わらず、実際には本学で活動していない。これらの学生を含めた62%の学生の内32%が活動したいと思うサークルがないと答えている。大学が設立されて以来、サークルが設置されては消滅していくという現状が続いているため、学生の希望にあったサークルが存続していないのが現状である。アルバイトについては後述するが、とにかくアルバイトに携わっている学生が多いのが現状である。

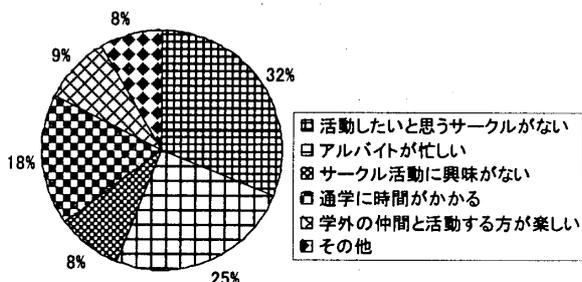


図18 活動しない理由について

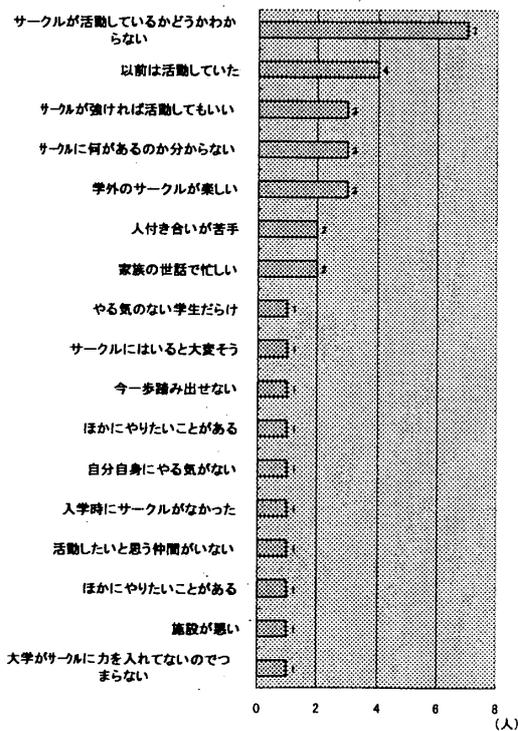


図19 活動しないその他の理由について

(5) 新しいサークルの設置および設置上の障害について  
 活動したいと思うサークルがないと答えた学生に対し、新しくサークルを設置したいか尋ねた結果を図20に示した。是非つくりたいと答えた学生は11%、誰かが協力するならば38%、思わないと答えた学生は47%、その他が4%であった。是非つくりたい、誰かが協力するならばをあわせると49%となり、約半数の学生がサークルを新たに立ち上げたいと考えていることが分かる。これらの学生に対し、新しくサークルをつくる上で何か障害になることがあるのか尋ねた結果を図21に示した。障害があると答えた学生は74%、障害はないと答えた学生は26%であった。障害があると答えた学生の障害要因について図22に示した。施設がないと答えた学生が32%、指導者がいないと答えた学生は18%、時間がないと答えた学生は15%、お金がないと答えた学生は24%、その他が11%であった。その他の詳細について図23に示した。新しくサークルをつくりたいと考えている学生の障害要因の内、50%が施設および指導者の問題である。(3)でも記述したが、前掲「試案」で提案した活性化の対策事項と、ここで得た障害要因も類似している<sup>1)</sup>。課外活動を活性化させるためにもこれらの問題に対し検討を進め、上記「試案」をさらに具体化していく必要があると思われる。

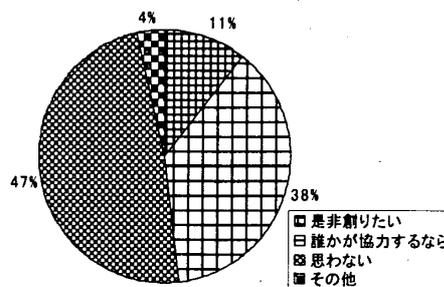


図20 新サークル設置について

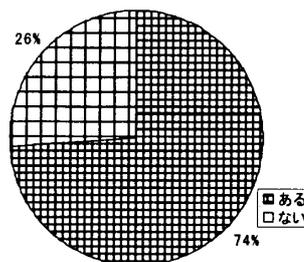


図21 新サークル設置上での障害について

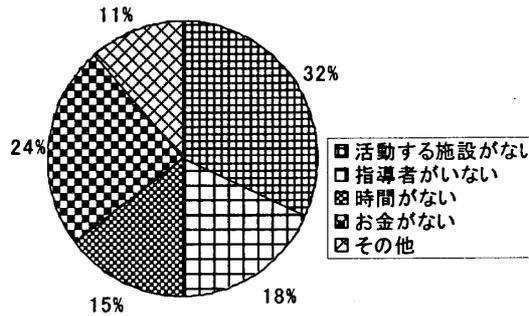


図22 新サークル設置上での障害要因について

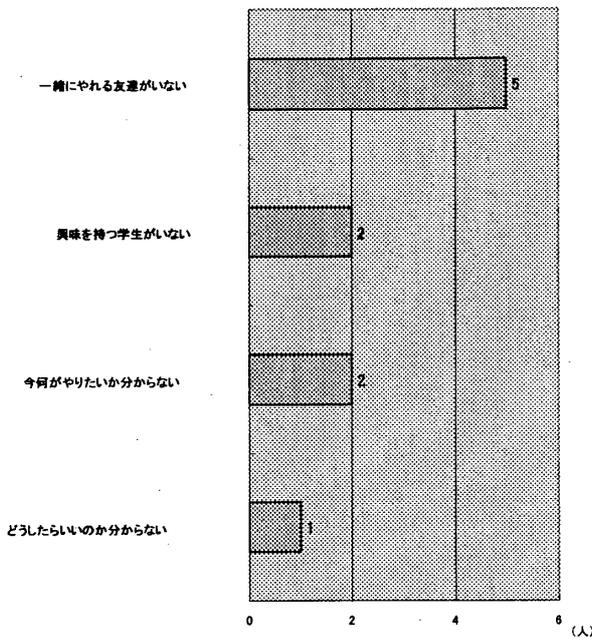


図23 新サークル設置上でのその他の障害要因について

3. 中学・高校時代のクラブ活動および大学でのサークル活動について

上記アンケートで、課外活動は人間形成に役立つ、友人を作る場となる、健康の維持増進に役立つ、忍耐力や根性をつける、進学や就職に有利であるか尋ねた。人間形成について図24に示した。そう思うと答えた学生は80%、思わないと答えた学生は5%、どちらでもないとした学生は15%であった。友人を作る場について図25に示した。そう思うと答えた学生は91%、思わないと答えた学生は2%、どちらでもないとした学生は7%であった。健康の維持増進について図26に示した。そう思うと答えた学生は79%、思わないと答えた学生は6%、どちらでもないとした学生は15%であった。忍耐力や根性について図27に示した。そう思うと答えた学生は67%、思わないと答えた学生は12%、どちらでもないとした学生は21%であった。

進学や就職について図28に示した。そう思うと答えた学生は39%、思わないと答えた学生は28%、どちらでもないとした学生は33%であった。友人を作る場および健康の維持増進については、多くの学生がそう思うと答えるある程度の予測は出来たが、人間形成について80%、忍耐力や根性について67%の結果は、今日的な風潮に似合わない結果である。進学や就職に関しては、本学にはスポーツ推薦といった入試制度が確立されておらず、目的意識を持った学生が少ないのが現状であるとともに、就職に関してもまだ実績がないので、本学の学生にはあまり関心がないようである。

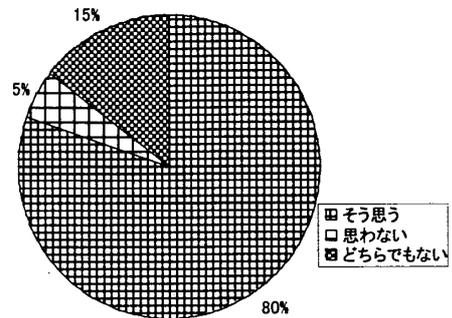


図24 人間形成について

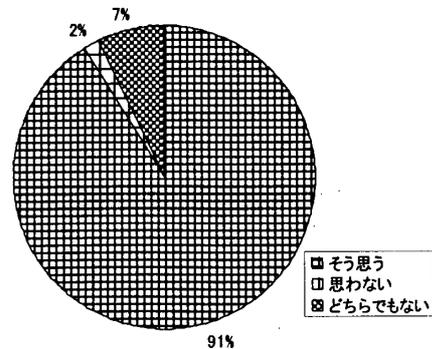


図25 友人を作る場について

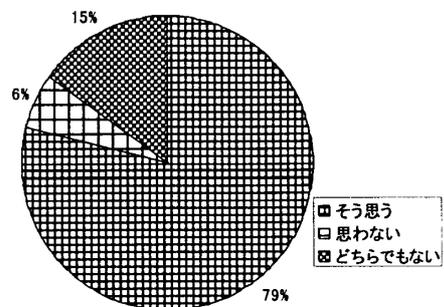


図26 健康の維持増進について

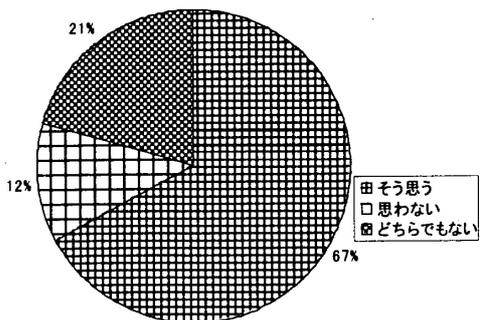


図27 忍耐力や根性について

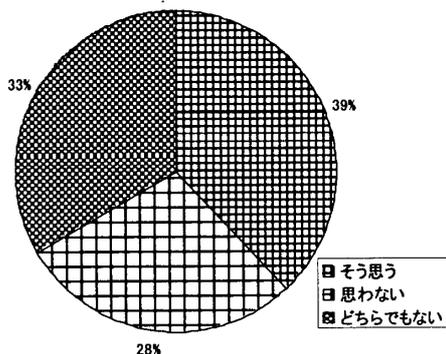


図28 進学や就職について

4. 学生生活における勉学以外の興味について

上記アンケートについての結果を図29に示した。興味があると答えた学生は49%、興味がないと答えた学生は51%であった。興味がないと答えた学生が半数以上を占める結果である。サークル活動を行わない理由としてはアルバイトが忙しい、学外の仲間と遊ぶのが楽しい等の要因が挙げられるが、学生生活の中で勉学以外に興味がないというのは問題である。勉学だけを目的に大学へきている学生がほとんどなのか、それとも大学に魅力を感じていないのか検討すべき問題である。一方で、興味があると答えた学生には様々な興味があり、人数の多い順に8項目を図30に示した。サークル活動に興味を持っている学生が最も多く68名、次いで友好関係が43名、以下友人との会話、スポーツ、音楽、パソコン、遊び、教員との会話の順であった。学生生活の中で本学に関わって興味を持っている学生を引き続き興味を持てるよう努めることが必要である。一方、そうでない学生に対し興味を持てるような大学づくりをすることがサークル活動の活性化だけでなく、大学の活性化にもつながるのではないかと考えられる。

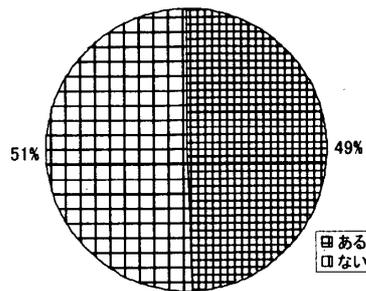


図29 勉学以外の興味について

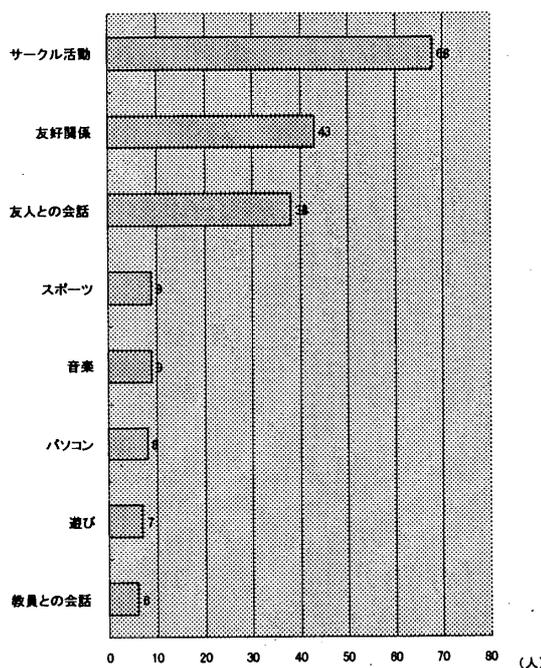


図30 勉学以外の興味事項について

5. スポーツの実施状況について

現在、運動不足を感じるか尋ねた結果について図31に示した。大変感じていると答えた学生は39%、感じていると答えた学生は38%、感じていないと答えた学生は15%、全く感じていないと答えた学生は8%であった。日頃のスポーツ状況について図32に示した。週に1回以上スポーツを行うと答えた学生は26%、月に1回以上スポーツを行うと答えた学生は10%、シーズンスポーツを行うと答えた学生は17%、全くスポーツを行っていないと答えた学生は47%であった。スポーツを行っている学生の実施種目について主なものを表1、2に示した。表1は大学のサークルおよび大学での活動種目について、表2は学外での実施種目について示した。大学での実施種目ではハンドボールが27名と最も多く、以下サッカー、バスケットボール、野球、イ

ンディアカ、テニス、ダンス、ボーリングの順であった。スポーツ（授業）と答えた学生が6名いた。学外での実施種目ではスノーボードが66名と最も多く、以下表の通りであった。本学の学生の77%が運動不足を感じ、半数近くの47%の学生が全くスポーツを行っていないという結果であった。学部の特性上、運動を積極的に行う学生が少ないのは仕方がない面もあるが、適度な運動は行うべきである。前掲「試案」でも記述したが、トレーニングルームなどの施設を充実させ、大学で体力づくりができる場を提供し、本学学生の体力面、健康面にも便宜を図る必要があるのではないかと思われる<sup>1)</sup>。

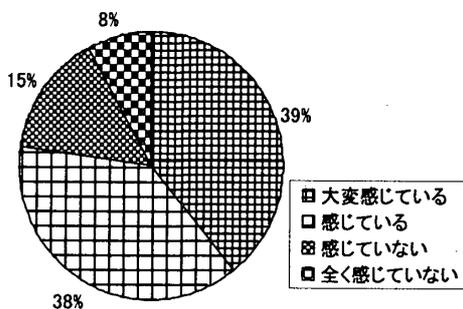


図31 運動不足について

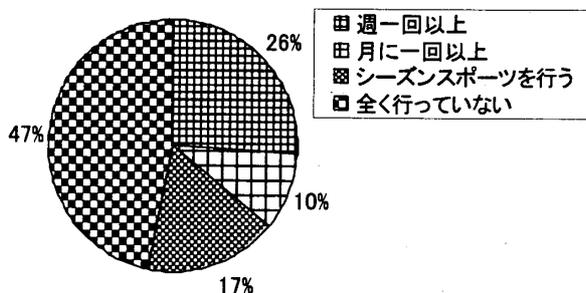


図32 スポーツ実施状況について

表1 実施種目について（大学関係）

種目	場所	誰	人数
ハンドボール	大学	部員	27
サッカー	大学	部員	8
バスケット	大学	部員	7
野球	大学	部員	2
インディアカ	短大	部員	4
テニス	大学	部員	3
ダンス	大学	友人	3
スポーツ(授業)	大学	友人	6
ボウリング	施設	部員	3

表2 実施種目について

種目	場所	誰	人数
スノーボード	スキー場	友人	66
スキー	スキー場	友人	20
サッカー	公園	友人	20
サッカー	施設	社会人	15
野球	施設	友人	13
バスケット	施設	友人	10
筋トレ	家	一人	17
筋トレ	施設	一人	5
テニス	施設	友人	6
水泳	施設	友人	9
ジョギング	近所	一人	6
サーフィン	海	友人	5
サイクリング	近所	一人	3

6. 学生のアルバイトについて

学生のアルバイト状況について図33に示した。アルバイトを行っている学生は67%、行っていない学生は33%であった。アルバイトを行っている学生の中には週7日間毎日バイトを実施している学生、1回のアルバイトが14時間の学生など様々なシフトでアルバイトを実施しているが、アルバイト日数および時間帯の多い順に図34に示した。週5日1日当たり4時間でアルバイトに励む学生が最も多く31名、次いで週4日1日当たり5時間でアルバイトに励む学生が28名、以下図の通りであった。約7割の学生がアルバイトを行っており、課外活動より積極的に取り組んでいるように思われる。中には生活のためにアルバイトをしている学生がいるのも事実であるが、多くの学生は自分の利欲のために行っているように思える。課外活動を積極的に行い、その空き時間でアルバイトをするという学生が大学内に多く存在しないことには、課外活動の活性化は難しいのが現実である。

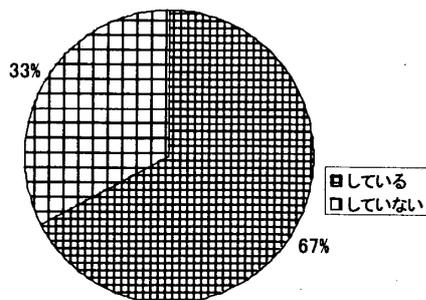


図33 アルバイト状況について

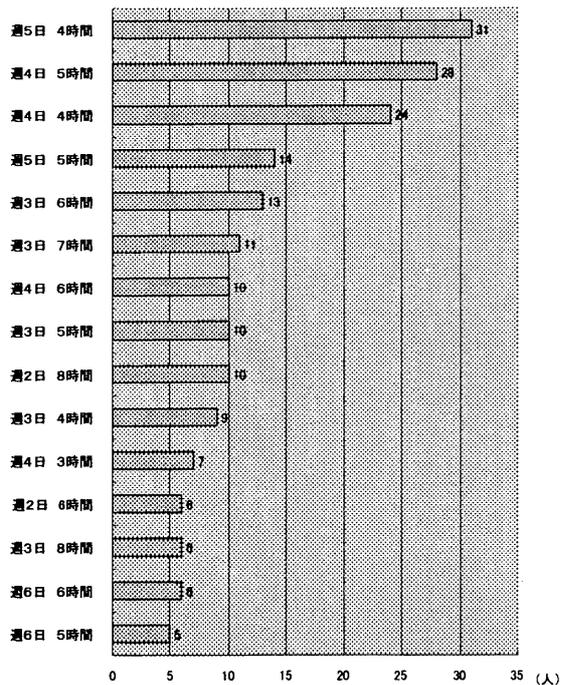


図34 アルバイトの時間帯について

7. 平日の自由時間の過ごし方について

学生の平日の自由時間（放課後）の過ごし方について図35に示した。遊んでいると答えた学生が最も多く144名、次いでアルバイトと答えた学生が141名、以下図の通りであった。質問項目に自由時間という表現を使用したため課外活動に取り組んでいると記入した学生が少ない結果となった。大学の講義以外は、アルバイトもしくは遊んでいる学生が約半数以上を含め、課外活動に取り組んでいる学生が少ないのが現状である。多くの学生が課外活動に取り組むことが出来るような環境づくりも必要である。

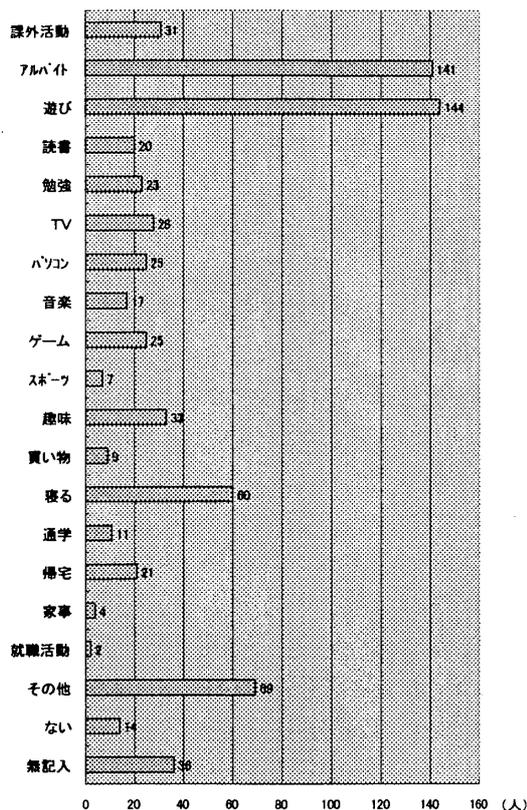


図35 自由時間の過ごし方について

8. 本学の課外活動のあり方について

本学の課外活動のあり方について不満や希望を表3に示した。不満や希望については大きく課外活動関係、施設関係、大学関係の3つに分けることができた。課外活動関係では、サークルの数が少ないと記入した学生が21名と最も多く、次いで課外活動が行われているのか分からないと記入した学生が19名、課外活動に力を入れると記入した学生が15名、以下表の通りであった。施設関係では、体育館のアリーナが狭いと記入した学生が8名と最も多く、次いでパソコンの充実と記入した学生が6名、部室が少ないと記入した学生が4名、以下表の通りであった。大学関係では、活気がなく寂しい学校であると記入した学生が8名と最も多く、次

表3 本学の課外活動のあり方について

課外活動関係	課外活動に力を入れる	15
	課外活動が行われているかわからない	19
	課外活動に活気が感じられない	7
	サークルの数が少ない	21
	サークルについて知らない	3
	サークルに魅力を感じるものがない	3
	サークルの活動が活発ではない	2
	入学時の説明を充実してほしい	1
	部を強化してほしい	1
	スポーツ系の活動を増やすべき	1
	部費の増加	4
	活動しにくい	1
	サークルが簡単に作れるようにしてほしい	1
	女子バス部をつくってほしい	1
	フットボールがない	1
	短大と合同の活動がない	1
	体育祭がつまらない	1
	学祭に力を入れてほしい	2
	学祭の情報が少ない	1
	自治会からの活動資金が少ない	1
サークル活動の資金の出所が知りたい	1	
自治会から資金がでているならどのように使われているか知りたい	1	
自治会費を払うのがつらい	1	
施設関係	体育館(アリーナ)が狭い	8
	施設が悪い	3
	トレーニングルームの充実	2
	キャンパスが狭い	2
	部室が少ない	4
	部室が狭い	3
	パソコンの充実	6
大学関係	サークルの掲示板をつくってほしい	1
	食堂を充実してほしい	1
	活気がなく寂しい学校だ	8
	大学がおもしろくない	2
	大学があまり動いていないと思う	3
	不満が多すぎていけない	7
	学生にやる気がない	5
	指導者がいい	4
	教員がもっと力を出してほしい	2
	活動できる時間が短すぎる	3
	新入歓迎会がない	1
	行事が少ない	1
	履修値の低い集団では大した活動はできない	1
友人とのつながりが深まらない	2	
他の大学との交流がない	1	
その他	10	
ない	87	
無記入	250	

いで不満が多すぎてかけないと記入した学生が7名、学生にやる気がないと記入した学生が5名、以下表の通りであった。全体的には、サークルの数が少ない、課外活動に力を入れる等という意見が多い結果となった。学生が客観的に捉えた意見や希望について大学として対処しうる点については検討していくことが必要であると思われる。

#### IV. まとめ

本学の課外活動の活性化を目的とするため、本学生の課外活動に関する実態を調査し、495名（70.1%）から回答を得て、次のことが明らかになった。

1. 中学・高校時代課外活動を経験してきた学生は、それぞれ80%、62%であり、その活動を大学でも実施したい学生は46%であった。
2. 課外活動に携わっている学生は全体の26%にすぎなかった。活動している理由の約半数が、活動している種目や内容が好きであると答えている。しかし、活動しているにも関わらず、障害があると答えている学生は57%であった。
3. 活動しない理由は、活動したいと思うサークルがないと答えた学生が最も多く32%であった。これらの学生の約半数が新しくサークルを創りたいと答えているが、創るに当たり障害があると74%の学生が答えている。
4. 課外活動は人間形成に役立つ、友人を作る場となる、健康の維持増進に役立つおよび忍耐力や根性をつけると答えた学生は多かったが、進学や就職に有利であると答えた学生は少ない結果であった。
5. 勉学以外の学生生活に興味を持っている学生は半数以下であった。
6. 本学学生の77%が運動不足を感じ、47%の学生が全く運動をしていない状況であった。
7. 約7割の学生がアルバイトに携わっており、週5日1日当たり4時間のアルバイトをしている学生が最も多かった。
8. 平日の自由時間は、遊びもしくはアルバイトで過ごす学生が多かった。
9. 本学の課外活動についてサークルの数が少ない、課外活動が行われているのか分からないと答える学生が多く、そのほかにも様々な意見や希望を把握することができた。

以上の結果を含まえ、今後「試案」<sup>1)</sup>をより具体化し、本学における課外活動の活性化、更には大学の活

性化に繋がるよう努めたい。

#### V. 謝辞

この調査にあたり、アンケート実施および回収にご協力していただきました諸先生各位にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 関 豪：課外活動における活性化の試案.名古屋文理大学紀要創刊号.p147-153 (2001)

#### 参考資料

- ・M 大学クラブガイド99